

# 古代史(邪馬台国)サミット in 伯耆

## 日本民族のルーツに迫る、最新の

# 古代史論争

### 古代日本の中心は、果たして「九州」か? 「畿内」か? 「山陰」か?

近年、日本古代史を巡る状況に新しい展開が生まれた。

これまで古代史論争は「畿内説」「九州説」を中心とする邪馬台国論争がほとんどを占めていた。しかし、26年前の荒神谷遺跡の358本の銅剣の発見以来、加茂岩倉・妻木晩田・松江田和山・青谷上寺地・出雲大社の3本柱等の他に類例のない遺跡の出土が山陰地方で相次ぎ、考古学的に古代史の再考を迫ったからである。さらに、歴史学的にも、古事記・日本書紀・出雲の国の風土記・神賀詞等に書かれている神話や伝承を見直し、研究の対象にする動きが始まっている。

果たして、古代文明発祥の地は、九州なのか畿内なのか山陰なのか。日本の歴史上最大の謎解きが、国民的関心を呼びつつある中、かつて日本の中心であった山陰伯耆の国に集まり、古代史や邪馬台国論争に関する最新の話題を学び、民族のルーツを探る国民的課題に挑戦する取り組みを行う。

#### 九州説



講師 パネリスト **安本美典**  
(元産能大学教授、邪馬台国の会会長)

著書「天照大神は卑弥呼である〜真説・卑弥呼と邪馬台国」邪馬台国論争のトップリーダー。卑弥呼を天照大神に比定し、邪馬台国は高天原であり九州に実在したと立論。邪馬台国は、「九州甘木・朝倉説」。

#### 畿内説



講師 パネリスト **北條芳隆**  
(東海大学教授)

著書「古墳時代像を見直す」前方後円墳の起源や成立過程の解明に取り組む。箸墓古墳と共通の設計図があり、前方後円墳が造られたと提言。

#### 山陰説



講師 パネリスト **田中文也**  
(鳥根県立大学北東アジア地域研究センター市民研究員)

著書「新説邪馬台国山陰説」古代史の研究に、膨大な自然科学(医学・生物学・気象・環境・物理学・数学等)や民俗学・神話・伝承の研究を導入し、古代日本の中心は山陰地方だったのではないかと問題提起をしている。



- 開催日時 平成23年**10月1日(土)**午後**1時30分**開演(午後1時開場・午後5時終了)
- 会場 **米子市文化ホール 大ホール** 鳥取県米子市末広町293番地
- 参加費 **2,000円** (サミット大会パンフレット、資料代等含む)

〈チケット取り扱い所〉今井書店グループ、米子市文化ホール

後援 米子市、米子市教育委員会、境港市、境港市教育委員会、安来市、中海市長会、(財)米子市教育文化事業団、新日本海新聞社、山陰中央新報社、読売新聞米子支局、朝日新聞米子支局、毎日新聞鳥取支局、(株)中海テレビ放送、DARAZ FM、鳥取県西部経済同友会、米子商工会議所、境港商工会議所、中小企業青年中央会、宍道湖中海JC、(株)今井印刷、梓書院、新人物往來社、邪馬台国の会(東京)、邪馬台国を考える会(九州)、蒜山歴史研究会(岡山県)、比婆山のロマンを探究する会(鳥根県)、八頭町郷土歴史研究会、日南たたら研究会、月読会、邪馬台国山陰説を地域の財産にする会、邪馬台国山陰説受講生の会及びゼミ生の会、山陰古代史研究会設立準備委員会

主催 山陰古代史研究会設立準備委員会

〈お問い合わせ〉 Eメール [tanaka-if@sea.chukai.ne.jp](mailto:tanaka-if@sea.chukai.ne.jp) (田中まで)